パネルセッション　発題３

地域･家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究
―出来事作文にみられる「話しことば」の使用（作文チェッカーの開発とその活用）

聖心女子大学　岩田一成

１．齋藤科研のリテラシープロジェクトの概要

・日本生育外国人児童のリテラシーの発達の一側面として「日本語の作文の力」の発達を記述する。

・データ収集の方法と分析内容

外国人児童が全校児童の半数以上を占める小学校で 8 年間（2008~2015 年）にわたって収集した「出来事作文」（教師の指導が全く入っていない）について、産出量・文の複雑さ、語彙について量的分析を、内容、文章構造について質的分析を、縦断的・縦断的に進めている。

＊本発表では話しことば要素を抽出するために作った「作文チェッカー」による分析結果を報告する。
⇒分科会では、語彙に関する横断調査の結果、ねじれ文に関する縦断調査の結果を報告する。

２．本発表の目的―作文チェッカーを使用した作文の分析（2012-2013 の作文を対象に）

・作文に混在する話し言葉要素を量的に抽出する

↑　習得研究での指摘：学童期の言語発達

①語彙の増大

②異なる言語域（レジスター）の習得（例　話し言葉と書き言葉（ライトバウン他 2014）

⇒ツールの作成

・投入した作文を量的に分析するためのツールを開発した

・話し言葉文法要素（岩田 2015ab）から話し言葉語彙要素へと展開

・語彙の延べ語数、異なり語数とその一覧も抽出可能にした（本発表のおまけ）

３．文法における話し言葉形式（岩田 2015ab）

表１　分析対象：小学生が書いた作文（2012 年，2013 年）

		２０１２J		２０１２F		２０１３J		２０１３F	
		人数	文字数	人数	文字数	人数	文字数	人数	文字数
低学年	2 年生	10		15		3		7	
	3 年生	5	3215	26	13112	10	1747	12	2742
高学年	4 年生	8		21		5		23	
	5 年生	7		20		8		21	
	6 年生	10	16761	20	39416	7	7428	20	29270
	合計	40	19976	102	52528	33	9175	83	32012

＊話し言葉要素（書き言葉になじまないもの）の決定　岩田・小西（2015）を基に、形式がペアになっているものを抽出して決定。その後、発表時に会場から出たコメントに基づき、形式を順次追加している。

表 2　計算方法　：各式を百分率で表示

1　んだ	んだ（です)÷〔のだ（です)+んだ（です)〕
2　てる	てる÷(ている+てる)
3　みたいだ	みたいだ÷(ようだ+みたいだ)
4　けれど（けど）	(けれど+けど)÷〔が+(けれど+けど)〕
5　とく	とく÷(ておく+とく)
6　ちゃう	ちゃう÷(てしまう+ちゃう)
7　んだって	んだって÷(そうだ+んだって)
8　って言う	って言う÷(と言う+って言う)

例　ごはんをたべてると　　ごはんをたべていると
　　朝は早いけれど（けど）　　朝は早いが
　　おくれちゃったので、　　おくれてしまったので、

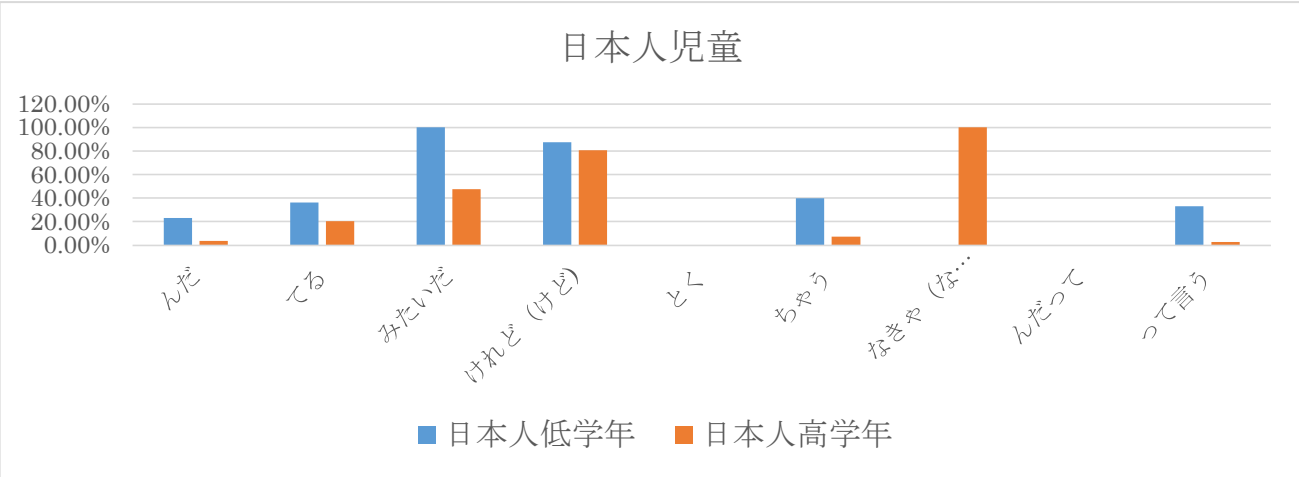
表 3　所属別・学年別作文分析結果（一部のみの掲載）

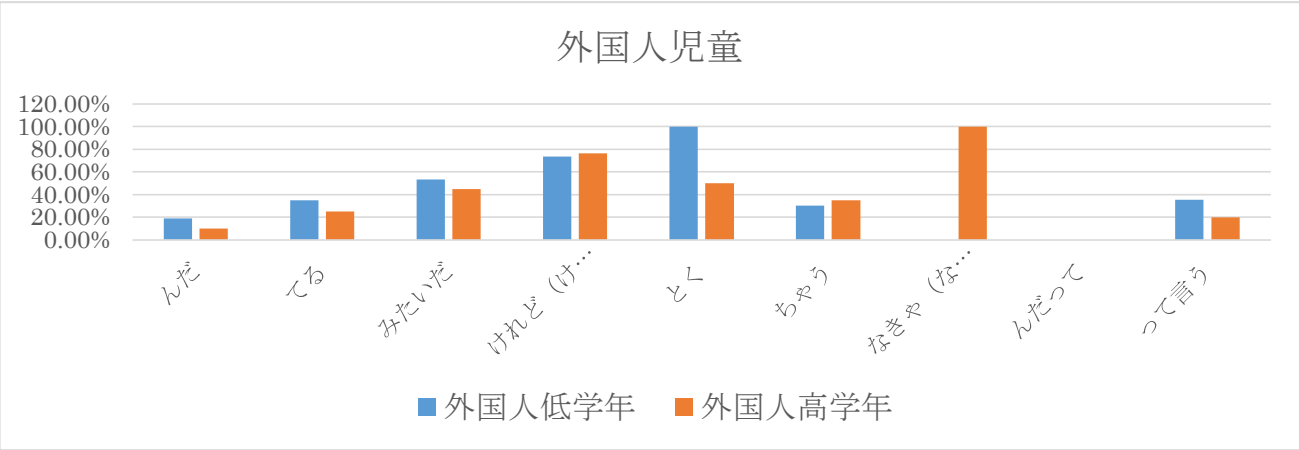
	J 低学年		J 高学年	
1　んだ	(1+2)/((10+0)+(1+2)) ＝	23.08%	(3+1)/((95+4)+(3+1)) ＝	3.88%
2　てる	8/(14+8) ＝	36.36%	31/(122+31) ＝	20.26%
3　みたいだ	1/(0+1) ＝	100.00%	9/(10+9) ＝	47.37%
4　けれど（けど)	(0+7)/(1+(0+7)) ＝	87.50%	(11+43)/(13+(11+43)) ＝	80.60%
5　とく	0/(0+0) ＝	－	0/(2+0) ＝	0.00%
6　ちゃう	2/(3+2) ＝	40.00%	2/(25+2) ＝	7.41%
7　なきゃ（なくちゃ)	(0+0)/((0+0+0+0)+(0+0)) ＝	－	(1+0)/((0+0+0+0)+(1+0)) ＝	100.00%
8　んだって	0/(0+0) ＝	－	0/(0+0) ＝	－
9　って言う	3/(6+3) ＝	33.33%	1/(37+1) ＝	2.63%

	F 低学年		F 高学年	
1　んだ	(1+3)/((12+5)+(1+3)) ＝	19.05%	(16+6)/((188+12)+(16+6)) ＝	9.91%
2　てる	14/(26+14) ＝	35.00%	99/(294+99) ＝	25.19%
3　みたいだ	8/(7+8) ＝	53.33%	25/(31+25) ＝	44.64%
4　けれど（けど)	(1+21)/(8+(1+21)) ＝	73.33%	(8+122)/(40+(8+122)) ＝	76.47%
5　とく	2/(0+2) ＝	100.00%	2/(2+2) ＝	50.00%
6　ちゃう	3/(7+3) ＝	30.00%	17/(32+17) ＝	34.69%
7　なきゃ（なくちゃ)	(0+0)/((0+0+0+0)+(0+0)) ＝	－	(1+0)/((0+0+0+0)+(1+0)) ＝	100.00%
8　んだって	0/(0+0) ＝	－	0/(11+0) ＝	0.00%
9　って言う	6/(11+6) ＝	35.29%	20/(82+20) ＝	19.61%

⇒「ちゃう、って言う」など、一部形式では F のほうが作文に話し言葉要素が残留していること
を確認

図１　表３をグラフにしたもの





４．話し言葉的語彙

岩田（2015ｂ）の発表で出たコメントを基に、新たに語彙の中の話し言葉要素を設定。

表４　話し言葉的語彙（副詞・接続詞）　分析対象

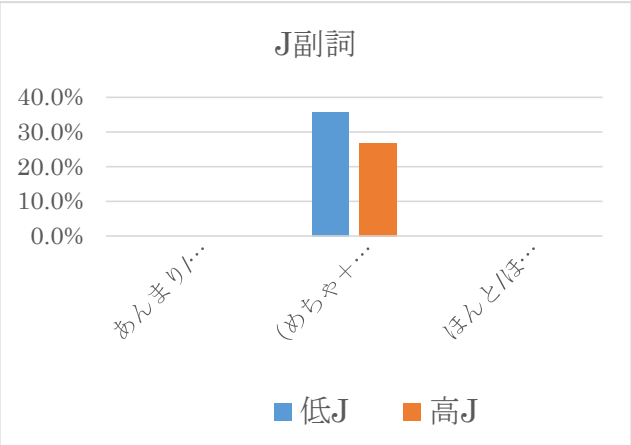
あんまり/あんまり＋あまり
めちゃ類（**めちゃ＋めっちゃ＋めちゃめちゃ＋とっても**）/（分子＋とても）
ほんと/ほんと＋ほんとう
動詞の**て形接続** / 読点
じゃあ/じゃあ+では+それでは
で/で+そして+それで+それから

表５　分析結果　副詞

	あんまり割合	あんまり	あんまり＋あまり	めちゃ類割合	めちゃ類	めちゃ類＋とても	ほんと割合	ほんと	ほんと＋ほんとう
低 J	0.0%	0	0	35.7%	5	14	0.0%	0	0
高 J	0.0%	0	3	26.8%	15	56	0.0%	0	1
低 F	100.0%	3	3	14.3%	2	14	0.0%	0	1
高 F	37.5%	3	8	12.7%	8	63	33.3%	1	3

⇒めちゃ類に関しては、J のほうが話し言葉要素が残留している、あまり類が J が０%に対して F は頻度が高い

図２　表５をグラフにしたもの



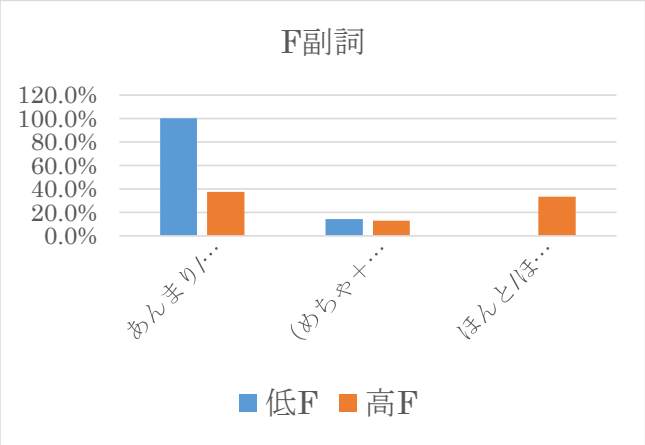
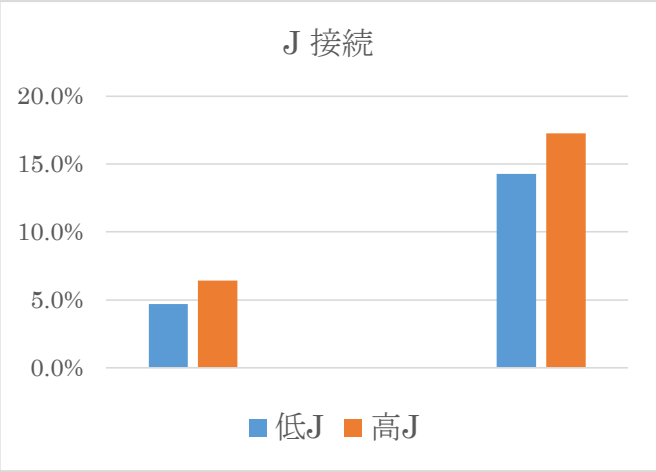


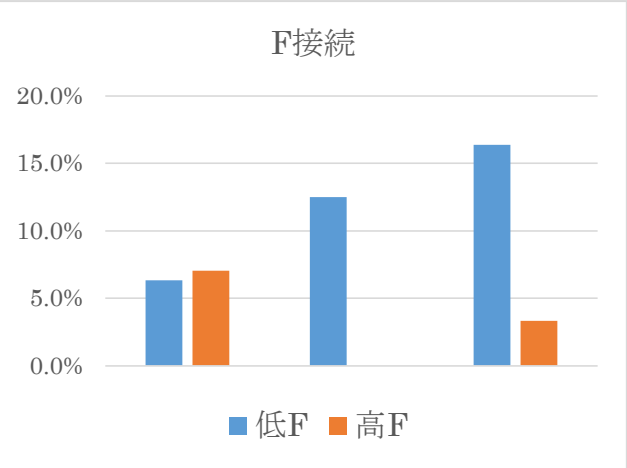
表６　分析結果　接続詞

	動詞て形接続　割合	動詞て形	、(読点)	じゃあ　割合	じゃあ	じゃあ＋では＋それでは	で　割合	で	で+そして+それで+それから
低 J	4.69%	6	128	0	0	1	14.29%	2	14
高 J	6.42%	51	795	0	0	42	17.24%	5	29
低 F	6.33%	21	332	12.5%	1	8	16.36%	9	55
高 F	7.04%	39	554	0	0	12	3.33%	1	30

⇒　て形接続以外は、どれも非常に出現数が少ない　高学年に上がると全体的に消えていく。

図３　表６をグラフにしたもの





５．質的分析：話し言葉形式は特定の子に集中する（実例はパワーポイントでお見せしながら進めます）

例１　女の子　東南アジア　５年生

→作文チェッカーで指定した形式がたくさん見られる。話し言葉要素がいろいろ見られる例

例２　女の子　東アジア　４年生

→特定形式が頻出する例

例３　女の子　日本　６年

→指定した形式が広く見られる例

例４　女の子　日本　４年生

→特定形式が頻出する例

６．結論

・話ことば要素の比較では、J と F の違いが少し見られた

・質的に見ていくと一人か二人の作文が量的調査に大きな影響を与えている

今後の可能性

・作文チェッカーでは語彙を分析して抽出が可能になっている。

→低学年から高学年にかけて語彙がどのように変化するのかを量的に記述が可能である

【参考文献】

岩田一成（2015a）「話し言葉の指標選定とその抽出システム」『多様な言語文化背景を持つ子どもたちのリテラシーフォーラム２』発表資料

岩田一成（2015b）「外国人児童の作文に見られる話し言葉」『外国人児童のリテラシー発達を支援する―作文分析の結果を受けて―』日本語教育学会秋季大会予稿集

岩田一成・小西円（2015）「出現頻度から見た文法シラバス」『シラバス作成を科学にする』pp.87-108 くろしお出版

齋藤ひろみ・森　篤嗣・北澤　尚・菅原雅枝・嶌田陽子・工藤聖子・阿部志野歩（2014）「日本生育外国人児童のリテラシー発達を追う―作文縦断調査の多面的分析―」『社会言語科学』16 巻 2 号　社会言語科学会

パッツィ・M.ライトバウン／ニーナ・スパダ（2014）『言語はどのように学ばれるか』岩波書店